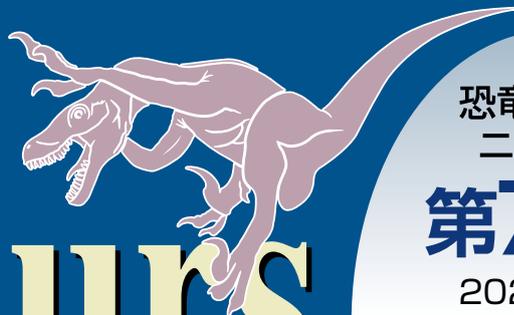


恐竜 Dinosaurs



恐竜博物館

ニュース

第77号

2026.3.26

福井県立恐竜博物館

特集：恐竜博物館この1年のあゆみ～2025年度恐竜博物館の動き～

- 目次 ▼ 博物館トピックス「恐竜博物館この1年のあゆみ～2025年度恐竜博物館の動き～」…2～4
▼ 福井県立大学恐竜学部勝山キャンパスがオープンします！…5
▼ 研究員のページ「奇妙な2本指の足跡を追って」…6～7 ▼ 25周年記念出版「Kitadani 恐竜時代の福井を解き明かす」…8

ステノニコサウルスの一種

Stenonychosaurus sp.

竜盤類 獣脚類 テタヌラ類 トロオドン科

前期白亜紀

カナダ アルバータ州



恐竜の中でも割合的に特に大きな脳と目を持ち、知能が高く夜行性だったと考えられています。口には小さな歯が多く並んでいますが、それぞれの歯のふちにみられるギザギザ(鋸歯)が大きい点は、雑食性を示す特徴と考えられています。



恐竜博物館この1年のあゆみ

2025年度 恐竜博物館の動き

化石研究体験の参加者が通算5万人突破

2023年7月14日の恐竜博物館リニューアルに合わせ誕生した「化石研究体験」の通算参加者数が、4月5日(土)に5万人を突破し、化石研究体験に参加される子どもたちと福井県公式恐竜キャラクター「ジュラチック」が、くす玉を開いてお祝いをしました。



セレモニーの様子

「iFデザインアワード2025 ゴールド」の授賞式に出席

当館の「化石研究体験」が国際的なデザイン賞「iFデザインアワード2025」の「ゴールド(最高賞)」を受賞し、4月28日にベルリン(ドイツ)で行われた授賞式に谷川館長らが出席しました。また、受賞のトロフィーと賞状を当館化石研究体験室前に掲示しました。



授賞式の様子 (iF DESIGN AWARD NIGHT 2025のHPより)

巡回展「ポケモン化石博物館」の入場者数が15万人を突破

3月8日に開幕した巡回展「ポケモン化石博物館」の入場者が5月13日(火)(64日目)に15万人を突破し、ご来館された子どもたちとくす玉を開いてお祝いをしました。

なお、5月25日(日)まで期間中の入場者数は、17.3万人でした。



セレモニーの様子

開館25周年記念特別企画商品「FPDM戯画」を発売

開館25周年記念特別企画として、越前市在住の墨アーティスト上田みゆき氏とのコラボレーション商品「FPDM戯画」シリーズを7月4日(金)より発売しました。また、当商品の発売に合わせて、報道機関の方々を対象に、商品説明会を開催しました。



「FPDM戯画」美濃焼 まめ皿



説明会の様子

福井県立恐竜博物館 開館25周年記念特別展を開催

特別展「獣脚類2025～「フクイ」から探る恐竜の進化～」が7月11日(金)に開幕しました。

この特別展は、「フクイ」の名を冠する3種の獣脚類と、今後の発見が期待されるスピノサウルス科に焦点を当て、それぞれの系統の進化史を紹介するとともに、それらの発見とその後の研究の重要性に加え、35年以上にわたる発掘調査が持つ意義についても理解を深める機会を提供する内容となっており、11月3日(月・祝)まで開催しました。



特別展の様子



開館25周年記念アニメ映画 「ティラノがやってくる！ ハートとふしぎな虹の実」 の上映を開始

開館25周年を記念して、オリジナルアニメ映画「ティラノがやってくる！ハートとふしぎな虹の実」を製作し、7月14日(月)から館内上映を開始しました。

また、上映の開始に先立ち、7月13日(日)には、今回のアニメ映画の原作者である大人気の絵本作家宮西達也氏が来館し、絵本の読み聞かせライブやトークショーを開催しました。



アニメ映画ビジュアル



イベントの様子

恐竜博物館の通算入館者数 1500万人突破

2000年7月14日に開館した当館への通算入館者数が、8月16日(土)に1500万人を突破し、ご来館された子どもたちと福井県公式恐竜キャラク

ター「ジュラチック」が、くす玉を開いてお祝いました。



セレモニーの様子

「アジア恐竜国際シンポジウム」が開催

9月26(金)から30日(日)にかけて、「第6回アジア恐竜国際シンポジウム日本2025」が開催されました。当国際シンポジウムは、アジア各国で2年毎に開催されており、今回は福井県立恐竜博物館開館25周年と福井県立大学恐竜学部開設を記念して、福井県で開催されました。

この国際シンポジウムの開催に合わせて、当館では、一般の方々に向け、海外の研究者を講師に招いた講演会やワークショップを開催しました。



講演会の様子

特別展「獣脚類2025～「フクイ」から探る恐竜の進化～」の入場者数が30万人を突破

開館25周年記念特別展「獣脚類2025～「フクイ」から探る恐竜の進化～」の入場者数が、10月10日(金)（開催89日目）に30万人を突破し、ご来館されたみなさんと福井県公式恐竜キャラクター「ジュラチック」が、風船を飛ばしてお祝いました。

なお、11月3日(月・祝)までの期間中の入場者数は365,843人で過去最高となりました。



セレモニーの様子

神戸市立王子動物園で PRイベントを開催

来館者の割合が最も多い関西圏における知名度向上と誘客拡大のためのPRイベントを実施し、多くの来場者が実物の恐竜化石（フン化石）に触れ、恐竜博士らと記念撮影を行うなど楽しんでいました。

- 期間：2025年11月15日(土)～16日(日)
- 場所：神戸市立王子動物園



PR活動の様子

チョコレートで作った恐竜を展示する 「大好きをつなげる生き方 小山 進展」を開催

チョコレートで作った恐竜を展示する巡回展「大好きをつなげる生き方 小山 進展」が12月19日(金)に開幕しました。

この巡回展は、パティシエ・ショコラティエの小山進氏が制作した10体のチョコレート恐竜に加えて、当館での開催のために新たに制作した福井県の恐竜「フクイペナートル」1体を展示する内容となっており、2月23日(月・祝)

まで開催しました。

また、12月20日(土)には、小山進氏によるワークショップが当館で開かれ、申込みのあった親子を対象に、マジパンで「恐竜」を作りました。



チョコレート恐竜「フクイベナートル」



展示の様子

ブラキオサウルスのモニュメントの塗り替え完成 セレモニーを開催

7月から9月にかけて開催した『めりえコンテスト「ブラキオサウルスはどんな色？」』において金賞に選ばれた作品をもとに、ロードパーキング「恐竜街道」にあるブラキオサウルスの大型モニュメントの塗り替えを行いました。12月20日(土)には、完成セレモニーを開催し、参加されたみなさんとお菓子まきなどを行いお祝いしました。



セレモニーの様子

「ダイノ新年会2026」を開催

1月2日(金)から、新年をお客様と一緒に祝いする「ダイノ新年会」を開催し、福井県公式恐竜キャラクター「ジュラチック」によるお出迎えなどを行いました。2日(金)、3日(土)には、館内に展示されている恐竜にちなんだ開運メッセージが書かれた当館限定恐竜おみくじカードがお客様に配布されました。



イベントの様子

(山崎弘樹、高山泰昌)



特別会場を泳ぐスピノサウルス全身骨格



福井県立大学恐竜学部



勝山キャンパスがオープンします!

2025年、福井県立大学に全国初となる恐竜学部が誕生し、その教育・研究の拠点となる学部棟が、2026年4月に福井県立恐竜博物館に隣接する勝山キャンパスに整備されます。恐竜研究の最前線を担ってきた本県にとって、博物館と大学が物理的にも近接するこの新拠点の誕生は、教育・研究連携を発展させる大きな節目といえます。

新しい学部棟は、地層を思わせる外壁で、写真の左側（窓があるところ）は3階建てで、教員研究室や各種実験室などがあります。一方、右側は、大きなホールで、学生が過ごせる場所です。講義の間の休憩や学生たちの交流の場として利用します。また、このホールには大型スクリーンが設置され、学外の研究者が来たときに講演をする“講堂”の役目も果たします。

実はこのホールの内観は、恐竜のお腹の内部をイメージした作りとなっており、両脇に延びる梁が肋骨です。

また、さまざまな研究設備も備えられます。最も注目すべき設備はX線CT装置。今後は国内外の様々な化石標本を勝山キャンパスでデジタル処理



できる基盤が整います。

恐竜学部は、恐竜・古生物学と地質・古環境学を柱とする学際的な教育研究を特色としており、新しい学部棟に整備される最新のデジタル機器やX線CTなどを活用した研究を行います。入学定員は30名で、フィールドワークを重視した実践的なカリキュラムが展開されます。1年次は、永平寺キャンパスで基礎教育を履修し、2年次以降は勝山キャンパスで専門教育に取り組みます。



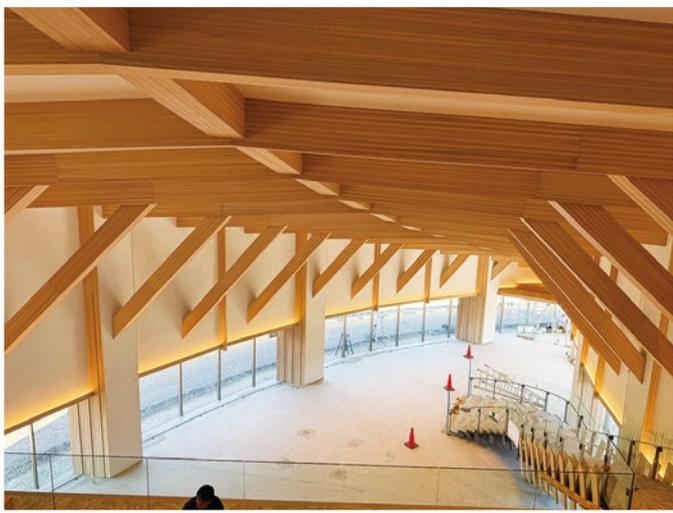
各部屋のサインは“骨”

学部棟の整備により博物館との連携は一層深まり、施設・研究機器の相互利用に加え、博物館研究員による講義や助言、博物館に関わる仕事への学生参加など、新たな教育プログラムが可能になりました。

こうした取り組みは、30年以上にわたり恐竜博物館で蓄積されてきた福井の恐竜研究基盤を次の世代へつなぎ、世界水準の研究拠点へと成長していきます。

“恐竜王国ふくい”の両施設がタッグを組むことで、新たな研究成果、人材育成、そして地域の魅力発信は次のステップへ移ります。今後、勝山から生まれる若い研究者たちの活躍と、博物館との協働による学術・教育の発展に、ご注目ください。

(柴田正輝)



3階からホールを望む

奇妙な2本指の足跡を追って

研究員 築地 祐太

収蔵庫での再発見

福井県勝山市にある北谷恐竜化石発掘現場の北谷層では、1991年に初めて恐竜の足跡化石が発見されました。以来、多くの標本が発掘され、福井県立恐竜博物館に収蔵されています。今回紹介する足跡化石は、1991年の発見以来、長年収蔵庫の中で保管されてきた標本です。2019年に標本整理が行われていた際、偶然に再発見されました。足跡の長さは8cmほどで、細長く先の尖った指の形状から、小型獣脚類の足跡であることはすぐにわかりました。しかし、この足跡化石には、それまでに北谷層で見つかった獣脚類の足跡とは明らかに異なる特徴があったのです。

奇妙な2本指の足跡

一般的に、獣脚類の足跡には3本の指の跡が残ります。しかし、今回の足跡化石には指の跡が2本しか残されていませんでした（図1）。このような特徴を示すのは、ドロマエオサウルス

科とトロオドン科を含む「デイノニコサウルス類」が残した足跡だと考えられています。デイノニコサウルス類の第二趾（人差し指）には大きなカギ爪がついていて、普段は地面につかないよう持ち上げて歩いていた（図2）。そのため、第三趾（中指）と第四趾（薬指）の2本分の跡しか残らないのです。実際に、デイノニコサウルス類が生息していた北半球および南米の白亜紀の地層から、そのような足跡化石が多数報告されています。

デイノニコサウルス類の足跡化石が初めて学術論文で記載されたのは1994年のことでした。そのため、1991年の発見当時は、この足跡を残した主がどのような恐竜なのかを判別することが難しく、長らく正体不明のまま収蔵庫で眠っていたのだと思われます。その後、2000年代後半から各地で報告例が相次ぎ、比較対象となる足跡化石のデータが蓄積されたことで、今回の標本もデイノニコサウルス類のものとして再評価することが可能

になりました。発見時に正体がわからなくても、大切に採集・保管しておくことで、後年の研究で正体が明らかになることがあるのです。こうして、発見から30年以上たった2025年に、この足跡化石の研究結果が論文として発表されました。

なお、恐竜の足跡化石は形成者を直接特定することが難しいため、骨の化石とは別の基準で学名（生痕分類）が与えられます。この足跡化石については、これまでに知られている足跡との比較から、ペロキラプトリクス属の一種に分類されることがわかりました。

さらなる探求

この足跡化石にはもう一つ興味深い特徴がありました。それは、第三趾の延長線に残されていた足底球の痕跡です。これは、中足骨と趾骨の間にあった肉球のような部位の跡だと考えられています。3本指の獣脚類の足跡にも同様な痕跡が見られることがありますが、こうした特徴を持つ足跡は前

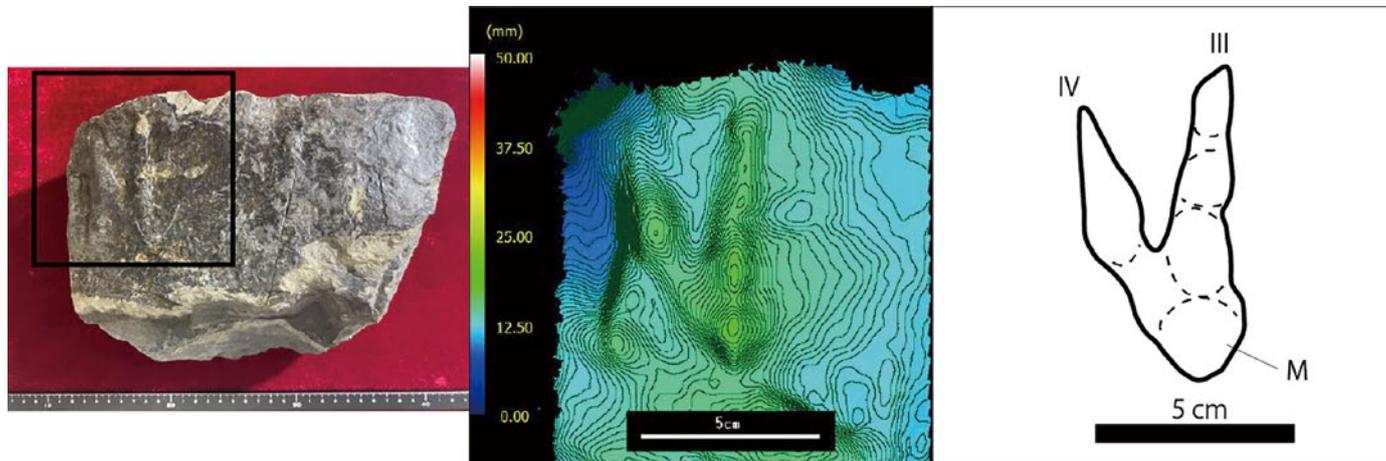


図1. 北谷層で見つかったデイノニコサウルス類の足跡化石。
左：写真、中央：四角部分の3D解析図、
右：足跡の輪廓図（III：第三趾、IV：第四趾、M：足底球）

期白亜紀になってから登場します。

この時期の獣脚類の中には「アークトメタターサル」という足の構造をもつ種類が登場したことが知られています。これは、3本ある中足骨（人間では足の甲にある骨）のうち、第三中足骨（真ん中の骨）の上部が、第二・四中足骨（両隣の骨）に挟まれて、前方からは見えなくなる構造を指します（図3）。3本の中足骨が束ねられることで、後肢にかかる負荷を分散させ、走行能力の向上に繋がったと考えられ

ています。また、この構造を持つ種類の足跡は、第三趾の延長線上に足底球を残した可能性があることも指摘されています。

デイノニコサウルス類の中では、トロオドン科がアークトメタターサル状の中足骨を獲得しており、その出現は前期白亜紀まで遡ることが判明しています。このことから、北谷層で見つかった足跡化石も、トロオドン科によって残された可能性が高いと考えられます。

デイノニコサウルス類の骨や歯の化石は、北谷層よりも少し古い時代に堆積した石川県の桑島層や岐阜県の大黒谷層、少し新しい時代に堆積した兵庫県篠山層群で見つかっています。一方で、北谷層ではこの足跡が唯一のデイノニコサウルス類の化石となっています。今後の発掘調査や研究の進展によって、北谷層からもデイノニコサウルス類の骨や歯の化石が発見されることが期待されます。

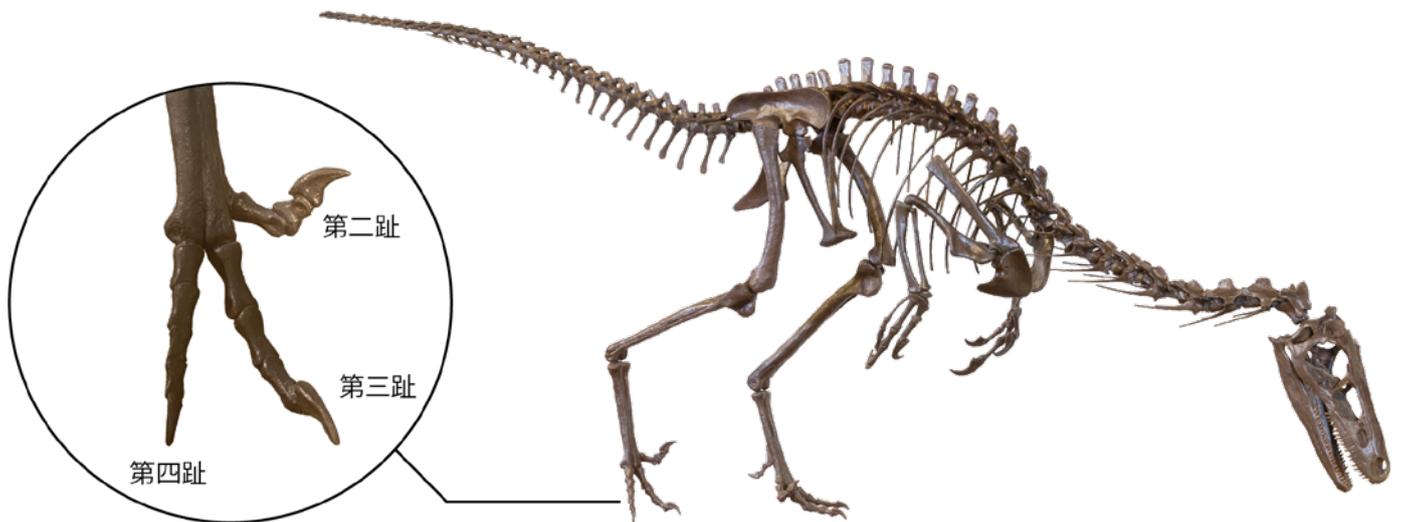


図2. デイノニコサウルス類の例。トロオドン科ステノニコサウルスの全身骨格と足部骨格の拡大。

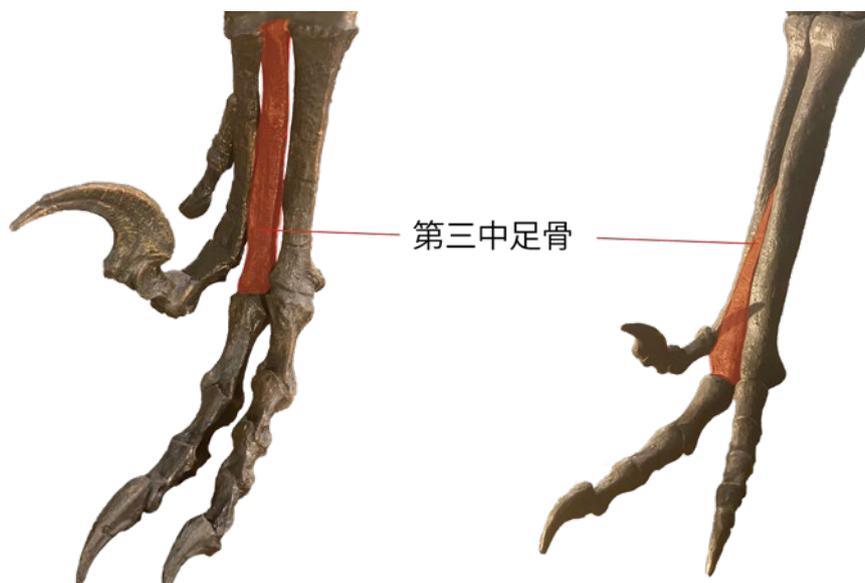


図3. ドロマエオサウルス科デイノニクス（左）とトロオドン科ステノニコサウルス（右）の足部骨格の比較。トロオドン科の第三中足骨は正面から見えないアークトメタターサルという構造になっている。

Kitadani

—恐竜時代の福井を解き明かす—

恐竜博物館
ミュージアムショップで
限定販売中
オンラインショップ
でも販売

2025年7月に開館25周年を迎えた福井県立恐竜博物館は、1980年代から長きにわたり、勝山市北谷町での恐竜時代の化石発掘調査において、中心的な役割を果たしてきました。この間、恐竜化石をはじめとする多くの動植物化石が発掘され、その研究は古生物学上の大きな成果へと結びついています。

この発掘事業は、1988年の予備調査に始まり、第一次恐竜化石発掘調査(1989~1993年)・第二次(1995~1999年)・第三次(2007~2010年)・第四次(2013~2023年)まで続いてきました。2026年度からは、これまでよりも少し下流域の地点を調査地とする第五次調査が予定されており、新たな発見に期待が高まっています。

博物館の開館25周年記念企画には当初色々なアイデアがありましたが、発掘調査が節目の年を迎えたこともあり、第四次調査までの歴史と成果を一般の方に向けて発信する書籍を制作することになりました。これまでも様々な方法で調査や研究の成果を発信してきましたが、博物館としてそれらを集

約した一般向けの書籍を発行するのは今回が初の試みとなります。研究員および学芸員18名が総力を挙げ、発掘調査の対象である地層「北谷(Kitadani)層」を主題として、発掘調査の経緯や方法、地層の堆積環境、これまで報告された化石とその研究成果に至るまで、発掘調査にまつわる事柄の総覧として編纂されました。

本書は全4章で構成されています。**第1章「手取層群北谷層」**では、福井県が発掘している北谷層について、いつどうやってできた地層なのか、当時はどんな世界だったのか、日本の他の地層とはどう関係性があるのかなどを解説します。**第2章「北谷での発掘」**では、北谷層で行われる発掘からクリーニング、そして研究に至るまでのプロセスや、どのような人が関わっているのか、これまで触れられてこなかったような細かい部分まで紹介しています。**第3章「北谷の古生物たち」**では、北谷層から見つかった恐竜やその他の動植物化石について、それぞれどのような特徴があるのか、研究を通してどのようなことがわかってきたのかを解説します。**第4章「北谷層を研究する魅力」**では、前章までの内容をふまえ、北谷層にまつわる多様な研究成果を横断的に見た際の重要性、そして北谷層を取り巻く研究環境の特殊さにふれ、学術の世界で北谷層の研究がどのような立ち位置にあるのかを論じています。特

に第4章のような総説は過去に言及されたことがなく、北谷研究の“すごさ”を実感できることから本書のおすすめポイントと言えます。

また、本書のために描き下ろされた復元画(作画:ポールペン画家 浩而 魅諭氏)を多数掲載していることも注目です。各古生物の復元画はもちろんのこと、巻頭の折り込み復元画では、研究成果を結集してよみがえらせた、恐竜時代の福井の陸上および水中の情景をご堪能いただけます。

ミュージアムショップでの限定販売となりますが、オンラインショップでも入手可能ですので、ぜひ一度お手に取っていただくと嬉しいです。本書を通して、国内外でも類を見ない特異で貴重な化石産地「Kitadani」のことをより深く知ってもらい、広く古生物学へ踏み込む足掛かりになることを願っています。

(小泉 早千穂)



[総 114 ページ・定価 1,800 円]

Dinosaurs 恐竜博物館 コーヌ 第77号 (第28巻) 発行日: 令和8年3月26日発行
発行: 福井県立恐竜博物館 〒911-8601 福井県勝山市村岡町寺尾5111
印刷: 河和田屋印刷株式会社

TEL: 0776-88-0001(代) URL: https://www.dinosaur.pref.fukui.jp/
FAX: 0779-88-8700



X(旧Twitter)にて、最新情報配信中!
ぜひフォローしてください。
<https://x.com/FukuiDinosaurs>

